

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4492200011		
法人名	医療法人久寿会		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	大分県速見郡日出町大字藤原1691番地1		
自己評価作成日	平成24年1月4日	評価結果市町村受理日	平成24年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4492200011&SCD=320&PCD=44>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分県大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成24年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

チームワークの取れた職員が、利用者と共に家族のような関係を築き、安心して暮らせるように援助しています。
食事は3食ホーム内で調理をしており、支度の音・香りなど五感にも伝わるように意識しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市郊外の生活の利便性に富む位置にある、1ユニット2階部分の施設で、医療法人に所属し、1階には小規模多機能施設を配しています。職員は理念に繋がる支援を目指し、利用者の普段の生活をチームで支える姿勢を大切に考えており、負担を与えない言葉かけに留意しながら、一人ひとりの思いに添った介護に励んでいます。食事の支度をする職員と、台所近くのソファに集う利用者との和やかな談話からも、憩いの場としての家庭的な雰囲気づくりへの気配りの様子が伺えます。また、施設は「家」である意義を踏まえながら、地域の中での暮らしの支援にも取り組んでいます。一人ひとりの利用者の安心と安全な暮らしに配慮しながら、心の通い合う介護に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員、及び外来者に見やすいよう理念の掲示を行っている 活動の根拠にも利用しながら共有している	地域の中で暮らす施設の体制づくりに取り組む中で、実践に努める姿勢が伺えます。毎月の会議の中で、理念の共有を図りながら、その目標の達成に向けて、チームワークづくりに取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催や地域行事、お接待への参加、地域の方のボランティアからの来所を頂くなどして交流している	助け合い速見(地域環境の活用)による、ボランティア団体の受入れが行なわれています。地域行事(おひな祭り見学・チャリティーショー等)への積極的な参加、また、住民への施設夏祭りの声かけや相談にも対応しています。	管理者は、地域とのつながりの意義を把握しています。地域に開かれた施設としての可能性について「日常の暮らしぶり」にも、全職員で着目される事に期待が持たれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険の手続きや入所相談について対応し活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年から続いて今年度も地域関係者の参加を実施し、事業所の内容に対しての理解や助言が頂けるように取り組んだ	市職員・地域関係の各担当者・家族・職員の出席の中で、利用者の現状等の報告が行なわれています。また、相互の情報の伝達の場として親睦を図りながら、施設への理解を深めると共に、向上に寄与しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営においての手続きや、困難なケースについてはその都度相談している	利用者に関する諸手続き等の庶務関連の訪問や、相談(独居の利用者の金銭管理等)を通して、相互の関係づくりが行なわれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、利用者が外に出る際にはさりげなく付き添っている	利用者の個性(介護拒否等)に即する、臨機応変な支援に努めながら、身心の健康に配慮したケアの実践に取り組む姿勢が伺えます。	常に新しい知識を取得する取り組みと、全職員で研修を重ねる周知徹底への体制作り、更なる期待が持たれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時を中心に皮膚や全身の観察を行っている 外傷に関しては発生の内容を検討し、経過を確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時、家族や関係者と制度についてや必要性を話し合いながら支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容の確認を行い、理解できるように説明し、その後も質問があれば答えるよう案内している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族とは意見や要望について話しやすい関係作りを行い、面会時に意見や相談を頂いている 面会が少ない家族にも郵送で近況をお伝えしている	家族等の面会時には、積極的なコミュニケーションに努める中で、相互の関係づくりに活かしています。敬老会や夏祭り等の行事への参加を図りながら、意思の疎通を図っています。	個々の家族との積極的な交流を図りながら、思いの把握に努めています。更なる意見交換の中で、より一層の支援(思い)の向上に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見・要望を会議の中や日常の業務の際に、随時話せる機会を設けている	職員は、毎月の会議に日常の支援からの気付きメモを記載しており、ハード・ソフト面の意見やアイデアが発せられる環境づくりに努めており、メモは会議録に添付しています。	年間2回の個人自己評価シートの記載があります。この仕組みを活用しながら、個々の職員の意向や要望を把握する体制づくりに期待が持たれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を定期的に振り返り、自己評価シートを利用しながら努力や実績を確認している また、勤務変更などの必要があれば柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、内部での研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や外部研修への参加などを通じ、交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始時には関わりを多くとり、要望などを傾聴する事で安心できるように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同じく、サービスの開始時には関わりを多くとり、要望などを傾聴する事で安心できるように支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始時には本人・家族とも必要としている支援をうかがい、当事業所での支援内容と合わせ他のサービスも含めながらその内容を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を持つ事を日常的に努め、過去の生活や経験を教えてもらうなどお互いに支え合う関係を築くよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も支援者の一員となれるよう、入所中でも職員が家族に近づき、利用者への関わりを支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族や友人の面会があることや地域に外出出来るよう支援を行っている	親族の方々や知人の訪問を積極的に支援しています。利用者を取り巻く環境(人々)の把握と、継続的な支援に取り組んでいます。携帯電話の使用や電話対応も行なわれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いを思いやることができるように利用者間に潤滑的に関わり、孤立しないよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期間の入院などの状況があっても、様子を確認に面会に行くなどして経過を追っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望を把握できるように努めている また、カンファレンス時に検討し、共有に取り組んでいる	利用者や家族の思いやこれまでの生活歴の把握に努める中で、全職員間での周知が図られ、利用者のニーズに添った環境づくりや介護に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや基本情報を活用し把握を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートや基本情報を活用し把握を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別のカンファレンスにより状態の把握を行い、介護を行なっている	計画の策定にあたり、心身の状況の把握や、日常生活から見える気付きを大切にしながら、毎月のカンファレンスにて全職員で取り組んでいます。一人ひとりの利用や家族の思いが活きる支援に努めています。	毎月の会議では、個々の職員の気付きメモによる意見交換も行なわれています。臨機応変な計画見直しに向けた配慮と、全職員の周知徹底に、一層の期待が持たれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを作成し、日々の状態の把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を聞き、柔軟な対応ができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の力を把握し、活用できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望をもとに、協力病院やそれ以外の専門医と連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している	もともと法人内の病院の患者さんであった方が多くそのままかかりつけ医となっています。また歯科や眼科など専門医への受診は本人、家族の希望の医療機関に職員が付き添い、その都度家族とも密に連絡を取っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の観察の中で、変化を発見した場合は職場の看護師に相談し、主治医に報告や受診ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時やその他、日常においても病院関係者と連絡を取り、情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行っている 必要に応じて重度化・終末期における対応指針をもとに、本人や家族への説明も行っている	終末期のあり方については指針をもとに、契約時、家族、本人に説明し、納得してもらっています。ほとんどの方は法人内の医療機関があることで、安心されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には初期対応の実践を行っているが、職員間での実践力はばらつきがある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事前に避難誘導のシミュレーションを行い、夜間におけるの想定も取り入れながら年に2回の避難訓練を実施している 今後、運営推進会議を通し地域の方へも参加や協力を依頼したい	年2回定期的に避難訓練を行い、消火器の使い方など消防署の協力を得ながら、備蓄も3日分用意しています。	今後消防団や、地域の方の協力を得ながら、避難訓練などが行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いはわかりやすい場所へ掲示している また、オムツの取り扱いに注意しながら日常の業務に取り組むよう努めている	マニュアルを作り、定期的に研修を行っています。トイレ誘導やオムツの交換なども他のひとに気づかれないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で会話の内容や表現に注意しながら希望を把握するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活スタイルに近いような過ごし方や、一人ひとりの希望に沿い過ごせるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔であり、好んでいる服が着用できるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事では片付けにおいて、利用者の可能な範囲の協力を頂いている その他にも、利用者と一緒に作る梅酒作りや、いりこのワタ取りを行っている	3食ともホーム内で調理されているため、音やにおいなどで五感を刺激し、食事が楽しみとなっています。また、おやつは利用者とともに、昔ながらのまんじゅうを作るなどの工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や内容の把握に努め、栄養のバランスが取れた食事を提供している また、一人ひとりの状態に合わせた摂取しやすい食事の形態に配慮し実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、トイレでの排泄ができるように声かけや誘導を行っている	排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りのおやつを取り入れながら、繊維の多い食品も考え作っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本のリズムはあるが、随時利用者の希望や体調に合わせて入浴できるように対応している	2日に一度午前・午後、希望や体調にあわせていつでも入浴できるよう個々に沿った支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも安心して静養ができるようにソファを使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から内服医薬の情報提供を受けながら、症状の変化と確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・読書・絵画・洗濯物たたみなど一人ひとりの力に応じての役割や楽しみごとを日常に取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望に合わせて職員や家族が同行し外出している また、年間の行事の中でも外出する機会を設け、普段いけないような場所にも行けるように取り組んだ	初詣、雛祭り、花見など年間行事を通して外出の機会を多くもっています。家族の方の協力も得ながらなるべく外出の機会が増えるよう支援しています。	立地条件上、毎日の戸外への散歩や外出が難しい分、建物の中のベランダやテラスでの日光浴などで気分転換がはかれるような工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額であれば金銭を所持していただいている 希望に応じてその金銭で買い物に出かけることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方にはいつでも家族に電話ができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物は少なめに、季節を感じられるような物を共有の空間に設置し、くつろぎやすい空間に努めている	リビングに面してキッチンがあり、食事の用意や後片付けの様子を見聞きしながらくつろげるスペースは、まるで自宅でくつろいでいるような癒される空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でのテーブルで気の合う仲間といつても話せるように、座席を配置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や電気製品などを持ち込み、安心して過ごせるような環境作りを心がけている	居室にはカラオケがあったり、テレビがあったり、なじみの品々を持ち込み、温かい雰囲気を作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの使用を勧めたり、電話や自動販売機での購入などができるように支援している		